

今号では目的を表す文を扱います。前号では原因を表す文を学習しましたが、そもそも「原因・理由」と「目的」は非常に近い概念です。初めて英語を習ったときにforが原因と目的の両方の意味を持っていることに驚いた人もいるかもしれません。しかし、スペイン語ではporとparaがあつて、両者は区別されています。

Thank you **for** your help. / It's good **for** your health.  
Gracias **por** su ayuda. / Es bueno **para** su salud.

ところで、歴史的にスペイン語を調べれば、興味深い事実と遭遇します。昔のスペイン語にはparaがなく、porに「原因」と「目的」の両方の意味がありました。やがて、以下のように2つの前置詞aとporが融合して、新たな前置詞が生まれるに至りました。

por a → pora → para

このようにporとparaの区別ができたため前者は「原因」を後者は「目的」を表すようになりました。しかし、porが完全に「目的」の意味を失ってしまったわけではなく、現在のスペイン語にも少し残っています。

例: todo **por** la patria 「すべては祖国のために」

現代のスペイン語ではporque～は「～だから」と原因を表す文を、para que～は「～のために」と目的を表す文を導きます。

さて、目的節の代表はこの「para que+接続法」です。目的はその意味合いから言ってまだ実現していないことを表しますので、必ず動詞は接続法になります。ただし、主節と目的節の主語が同じ場合は、「para+不定詞」を使います。例文で見ましょう。

Trabajo duro **para que viva** bien mi hija.

私は娘がよい生活ができるようハードに働く。

Trabajo duro **para vivir** bien.

私はよい生活ができるようハードに働く。

trabajarとvivirの主語に注目してください。最初の例では異なり(yo ≠ mi hija)、後の例では同じです(yo=yo)。このような「que+接続法」を使うか「不定詞」を使うかという基準は、以下に見るその他の目的表現においても同じです。ただし、文脈上明らかな場合、主語が異なってもpara以下に不定詞が使われる場合もあります。

Por favor, llame a la enfermera **para atender** al paciente.

患者を診てもらうために看護師を呼んでください。(usted ≠ la enfermera)

paraの代わりにaを使って、「a que+接続法」で目的を表すことがあります。ただし、「para que+接続法」ほど一般的ではなく、制限があるので注意が必要です。多くの場合、移動を表す主動詞とともに使われます。例えば、

**He venido hoy a que** me deis el regalo de cumpleaños, jajaja.

君たちが僕に誕生日プレゼントをくれるように今日やってきたよ、へへへ。

また、援助、貢献、強要等、他の人への影響を表す動詞(animar, ayudar, contribuir, obligar等)はこの構文を取ります。

Os **animo a que** participéis en el concurso de español porque es muy eficaz para mejorar vuestro nivel de español.

君たちにスペイン語コンクールに参加することを勧める。スペイン語力のレベルを上げるのに有効だから。

日常的な会話文ではparaやaなしの「que+接続法」だけで目的節を表すこともあります。

Vamos a abrir las ventanas, **que** entre el aire fresco.  
新鮮な空気が入るように窓を開けよう。

続いてよく使われる目的の接続詞句を見ていきましょう。  
まずは、「con el fin de que～」です。

Señor cliente: Tomaremos medidas **con el fin de que** este error no vuelva a ocurrir.  
お客様、二度とこのような間違いが起こらないように対策を取るつもりです。

ほぼ同じ意味で「a fin de que～」もよく使われます。

よく似た表現として「con el objeto de que」「～する目的で」、「con la intención de que」「～する意図で」、「con vistas a que」「～を見越して」、「con la esperanza de que」「～を期待して」等たくさんありますが、それぞれの名詞の意味が生きていることに注意しましょう。

さて、de modo (manera, suerte, forma) que～は、「+直説法」だと「～なので…である」という推断文でしたが(27号参照)、「+接続法」だと目的になります。

Hablaré despacio y en voz alta **de manera que** todos los estudiantes me entiendan.

すべての学生が理解できるようにゆっくりと大きな声で話しましょう。

ところで、目的の構文para (que)が目的というより「時間的連続」を表現する用法があります。

Mi tío se marchó a América sin avisárselo a nadie **para** pronto volver hecho millonario.

僕の叔父は誰にも知らせずにアメリカに渡ったが、すぐに百万長者になって戻ってきた。

この用法はジャーナリズムでよく使われるフォーマルな文体です。

「por si+直説法」は「万が一のために」、「念のために」、「もし～だといけないので」と起こりうることに危惧を表わす表現です。

Ahora está despejado, pero vamos a llevarnos el paraguas **por** si llueve.  
今は晴れているけど、万が一雨が降るといけないうので傘を持っていこう。

por si acaso～と疑念の副詞acaso「もしかして」が入ることがよくあります。最後に慣用句的に使用される表現を1つ覚えましょう。para que lo sepas「ご参考までに」です。

Te informaré de ello **para que** lo sepas.

ご参考までにこの事を言っておくよ。

目的を表す構文は「para+不定詞」を使えるようにするのがまず第一ですが、中級者の方はより高度な表現にもチャレンジしてみましょう。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。